



発行者 楽しい株式会社

住所 北九州市若松区向洋町10番1
北九州エコタウン実証研究エリア内

Tel 093-752-5300 fax 093-752-5303

ハチドリ通心(信)

2010年新春号 E-mail ceres@fun-c.jp URL http://www.fun-c.jp

謹賀新年

旧年中は格別のお引立てを賜り、厚くお礼申し上げます。本年も何卒倍旧のご愛顧のほど、お願い申し上げます。



昨年も多くのハチドリが誕生しました。今年はもっと多くのハチドリが誕生して、みんなでひとしずくを落とし、循環の輪(和)を大きくしていけるのを楽しみにしています。

「依存するより支え合い、上下でなく認め合う。挑むのではなくありのまま、疑うのではなく信じ合う。恨むのではなく敬い合い、説得するのではなく話し合う。」そんな

ハチドリの仲間がたくさんできますように。

今年も宜しくお願いします。

…親ハチドリのクリキンディより



「ハチドリのひとしずく」いま、私にできることこの物語は、南アメリカの先住民に伝わるお話です。

森が燃えていました。

森の生きものたちはわれ先にと逃げて行きました。

でもクリキンディという名のハチドリだけは、

いったり来たり、くちばしで水のしずくを

一滴ずつ運んでは火の上に落としていきます。

動物たちがそれを見て「そんなことをしていったい

何になるんだ」といって笑っています。

クリキンディはこう答えました。

「私にできることをしているだけ」

茗荷(みょうが)のお話

「茗荷を食べると忘れっぽくなる」

小さいころ茗荷を食べ過ぎるとぼけると祖母や母から言われたことがあります。皆さんも聞かれたことがあるでしょう。そのいわれについて最も有力な説として、お釈迦様の弟子にまつわる逸話があります。

茗荷の名前の元になったお坊さんは、周利槃特(しゅりはんどく)と言います。天竺(インド)の北部に生を受け、兄の摩訶槃特(まかはんどく)と共にお釈迦様に弟子入りをしました。

周利槃特はひどく物覚えが悪く、自分の名前さえ覚えられません。一方、兄は逆に聡明であった為、兄の賢さと比べられもの笑いの種でした。その為、托鉢に出かけても、お釈迦様の弟子として認められず、乞食坊主扱いをされ、お布施を貰う事が出来ませんでした。

お釈迦様はこれを憐れみ、「周利槃特」と書いたのぼりをこしらえて、「明日からこれを背負って托鉢に行きなさい。もし名前を尋ねられたら、これでございませうと、のぼりを指差しなさい。」と言われました。次の日からのぼりを常に背負って歩きました。周囲から笑いものにされてもずっと・・・



さて、兄は、物覚えの悪い弟に、何とかお釈迦様の教えを覚えさせようと手を尽くしてやりますが、弟の方は朝に覚えていたものを昼には忘れてしまうありさまでした。周利槃特は、自分の愚かさに涙を流して途方にくれました。それを見ていたお釈迦様は「自分が愚かであると気づいている人は、知恵のある人です。自分の愚かさに気づいてないのが、本当の愚か者です。」と言われ、ほうきを周利槃特に渡して「ごみを払おう、あかを除こう」と唱えて掃除をなさいと教えました。



「ただひたすらに・・・」

周利槃特は、お釈迦様から与えられたそのわずかな教えと戒めを基に精進をし続けました。

その日から、雨の日も、風の日も、暑い日も、寒い日も、毎日「ごみを払おう、あかを除こう」と唱えながら掃除をし続けました。やがて「愚か者の周利槃特」と呼ぶ人はいなくなり「ほうきの周利槃特」と呼ばれるようになりました。そして何十年経ち、周利槃特は自分のごみやあかを全て除き、阿羅漢と呼ばれる聖者の位にまでなったのであります。

お釈迦様は、「悟りを開くということは決してたくさんのごみを覚えることではない。わずかなことでも徹底すればよいのである。周利槃特は徹底して掃除をすることについて悟りを開いたのではないか。」と大衆の前でおっしゃいました。その後、周利槃特が亡くなり、彼のお墓にあまり見たこともない草が生えてきました。彼が自分の名を背に荷(にな)ってずっと努力しつづけたことから、この草は「茗荷(みょうが)」と名づけられたということになります。

「茗荷を食べ過ぎると忘れっぽくなる」というのは、茗荷を食べると周利槃特みたいに物忘れがひどくなるということのようです。しかし、お釈迦様の教えを守り、ただひたすらに自分にできることを実行し続けて、偉い人になったわけですから「茗荷を食べると賢くなる」でも良いのかも知れません。

「クリキンディの前世は茗荷和尚様」

ここまで知ると、ハタと気がつきます。「ただひたすらに自分のできることを実行する」・・・???

ハチドリのクリキンディではないか！するとクリキンディの前世は茗荷和尚様ということ???

昨年の漢字が「新」、一昨年が「変」。ものごとが変わったり、考え方を換えたり、政権が新しくなったり、それも必要なことではしょうが、一方で、茗荷和尚やクリキンディのように自分が信じることを変えずに「ただひたすらに実行」も必要なことではしょう。

茗荷和尚やクリキンディを見習いただひたすらに生ごみリサイクルをし続ける、新春からそんな決意を新たにいたしました。

昨年の暮、同僚と二人で食事に行った時「生ビール2杯！」と言ったつもりが「生ごみ2杯！！」と言ってしまいました。これって茗荷様のせい？

クリキンディのせい？と聞くと二人は声を合わせて言いました。「自分のせい！！！」



ハチドリ通心(信)は楽しい株式会社のホームページでご覧頂けます。

URL : www.fun-c.jp/ (松尾康志が担当しました。)